

特集

出生率第一位の大河原町子育て事情

町と民間団体と社協

明るく元気な社会には、子どもたちの力が必要です。少子化や核家族化の進行、地域社会の変容など、子どもを取り巻く環境が大きく変化す

今回は、安心して子どもを産み、健やかに育てるための町づくりとして、県内出生率第一位の大河原町の子育て支援を紹介いたします。

働きながら子育てしやすい町

宮城県南部に位置する大河原町の人口は、年々微増し現在2万3千人強、出生率は県内第一位を誇ります。

その秘密はどこにあるのでしょうか。

「大河原町は総面積25.8kmと小さな町。官公庁の出先機関が集まり、面積や人口の割に病院や施設が多いです。気候は穏やかで交通の便がよく、商店街も大きいしね。保育所は5ヶ所あり、特に私立保育所が3ヶ所と多いため、延



▲大河原町子ども家庭課の大沼早苗さん

長保育等で保育時間もある程度保たれています。働くお母さんのため以外にも、子育て支援センターは、平日は連日集いを開き、いつでも遊びに来られるよう努めています。子育て施策として際立って何があるというより、小さな面積の中に基本的なものがそろっていることが大きいんじゃないかしら。」

大河原町子ども家庭課の技術副参事大沼早苗さんが教えてくれました。大河原町に住み、仙台ほか周辺市町村に通勤する人も多いようです。

図.平成19年の出生率

Table with 2 columns: 出生率(%), 全国 (8.6), 宮城県 (8.5), 大河原町 (11.6)

※出生率=年間出生数÷10月1日現在人口×1,000

地域の中の子育て応援団

町外から越してきた若い家族が多い大河原町には、子育てをサポートする活動がたくさんあります。その中から2つの取り組みを紹介します。

社協・民生委員児童委員のブックスタート

ブックスタート事業の「コマ

「こんにちは」。1歳6ヶ月児検診に訪れたお母さんと、その影に隠れる一人の女の子。「○○ちゃん、どの絵本がほしい？」。民生委員児童委員の皆さんから優しく声を掛けられ、「ブー」とそつと指差した一冊。すると彼女の小さな手に、「はいどうぞ！お母さんにいっぱい読んでもらってね」と絵本を入れたバッグが渡されました。コクンとうなずきバッグを握りしめ、片方の手でお母さんを引っ張る姿は、誇らしげに映りました。

地域ぐるみで育てたい

大河原町社会福祉協議会（以下、「大



▲大河原町民生委員児童委員の皆さんと大河原町社協職員

ヶ月児検診に合わせて、絵本の贈呈や読み聞かせをするものです。絵本を紹介して赤ちゃんと保護者がゆつくりと触れ合い、愛情あふれる時間を共有することで、健やかに育ってほしいとの願いが込められています。

共同募金（歳末たすけあい募金）を活用して始めたこの事業は、今年で5年目。実働は、主任児童委員3人と民生委員児童委員1〜2人が当たりますが、始めるにあたり、大河原町社協が、町の健康福祉課、子育て支援センター、駅前図書館、大河原町民協のスタッフと一緒に話し合いを重ねたそうです。

★担当者の声★

主任児童委員の大平榮子さんと角田真由美さんに伺いました。

「最近の子育てについて感じることは？」

「積極的に子育てに参加するお父さんが増えていきます。ここにも夫婦で見て、お母さんが下の子に絵本を読み聞かせている間、お父さんは上の子のオムツを交換しているなんてね。」

「活動してよかったなと思ったことは？」

「読んで読んでと子どもにせがまれ、もらった本がもうポロポロ」と言われたこと。

「4ヶ月のうちの子どもはまだしゃべらないし、絵本はわからないんじゃないの？」と聞いてきたお母さんに、「読

んでお母さんの声を聞かせること、子どもはわかるんですよ」と伝えたのね。そしたらその通りで、お母さんの意識が変わったの。図書館に通っていると聞いた時はうれしかったんです。

「今後どのような活動をしたいですか？」

「継続は力なり。お母さんや子どもたちに私たち主任児童委員の顔を知らせてもらえ、町とも協力関係が築けました。夢は、初めて絵本をプレゼントした子どもたちが小学1年生になった時に、読み聞かせの会を開きたいですね。」

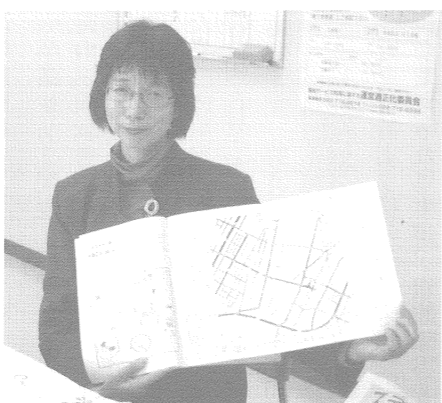
母親クラブだからこわかる

「モットーは、できることを、できる人ができる時に。」

「みらい子育てネットらんらんクラブ」は、子どもたちの健やかな成長を願ってボランティア活動をする母親クラブです。子育てマップ（らんらんマップ）や育児支援新聞の発行、カフェステーションの提供などを行っています。活動について、会長の小野葉子さんに伺いました。

町民愛読「らんらんマップ」

「らんらんマップ」とは、マップと言いつつも約60ページにも成る一冊の情報誌です。その内容は、町内の公園、医療機関、幼稚園・保育所、子育て支援センター、



▲らんらんクラブ会長の小野葉子さん

児童館などの各種施設や子育てボランティア・サークルの利用者視点の情報に、バスの路線図、子どもと出かける時のワンポイントアドバイスのほか、町のお祭りや大河原音頭の踊り方まで…。

「結婚や転勤を機に大河原町へ移り住み、右も左もわからないし、同じ年頃のママにもどこに行ったら会えるのかと心細い経験をした私たち。孤独の時期にこんな本があるとよかったですねえという思いから作りました」というマップは、メンバーが足で情報を仕入れ、手描きイラスト入りの見やすいもので、子育て中のお父さんお母さんに限らず、お年寄りにも好評だそうです。子育て支援センターや図書館等で無料配布されています。

癒しの時間「カフェステーション」

申し込み不要で、子ども連れで自由に参加できるとにぎわいを見せるのは、月に一度開かれる「カフェステーション」。ステーションとは、布や紙などに好きな型を置き、スポンジなどでイ

ンクを叩き染色する手芸です。お茶を飲み、他のお父さんお母さんとおしゃべりをしながら、ステーションを楽しみます。ここでは多少子どもが騒いでも大丈夫。時には自分のために時間を使うことも、上手に子育てをする秘訣のようです。

ママが元氣だと子どもも幸せ！

「子育てをしていると「ワー」と声を上げたくなる時がありますよ。出した時は出したらいい。子育て支援センターやらんらんクラブなど、ちょっとした外に目を向けてもらえれば、手を差し伸べてくれる所が大河原にはあるんです。また、子育て中も受けるばかりでなく、自分ができるボランティアがあるのよ。ガス抜きも兼ねて活動できたら素敵よね」と笑う小野さんの言葉に引き寄せられました。

協働の力で元気な町づくり

大河原町社協事務局次長の古山哲也さんは、「大河原町はボランティア団体も多く、町の施策のもと、子育てに限らず、民間活動団体の特徴を生かしたすみ分けと連携ができるようコーディネートしたいです」と語ります。

子育てしやすい町は、だれにとっても暮らしやすい町と言えるでしょう。

（宮城県社会福祉協議会取材）

